

今回の検査結果で、何らかの異常を指摘された方は、医師の診察をおすすめいたします。また、異常のなかった方は、これからも健康維持に努めて下さい。また、この検査結果の見方は、検診結果を見る際に参考資料としてご利用ください。

| 検査項目 | 検査の説明 |
|---------|---|
| 問診 | 日常の健康状態、病歴、家族歴から検査・治療の参考となります。 |
| 身体測定 | 体重・身長・体脂肪率を計りあなたの体型を測定します。 BMI（肥満度指数）：体重kg ÷（身長(m)×身長(m)） 正常値（19.8～24.2） 標準体重：身長(m)×身長(m)×22 体脂肪率：インピーダンス法 男性：25%以下 女性：30%以下（正確ではありませんので目安です。） |
| 視力 | 眼性疲労で急に視力が落ちた方、左右で視力差の大きい方は眼科受診をお勧めします。 |
| 聴力 | オーディオメーターで難聴の有無を調べます。加齢と共に高音から聞こえにくくなります。異常のある時は耳鼻科受診を。 |
| 血圧 | 血圧は個人差があり健康状態、環境などでも変動します。高血圧の方は心臓病、腎臓病、動脈硬化、脳卒中などを合併しやすいので、規則正しい生活、塩分の取りすぎ、十分な睡眠、そして肥満に注意しましょう。 |
| 超音波検査 | 超音波による画像診断です。心臓・肝臓・胆嚢・腎臓などの形態の異常やカラードップラーを用いて血液の流れを調べます。 甲状腺エコーでは腫瘤などを主とした甲状腺の器質的変化を見ることができます。 |
| 眼底検査 | 眼底に走る動脈の状態を調べ、糖尿病・高血圧・動脈硬化などによる変化がわかります。 |
| 肺機能検査 | 最大に吸い込んだ空気を一気にできるだけ多く吐き出し、その時の肺活量や1秒率、1秒量で肺の機能障害を調べます。（肺気腫、喘息など慢性閉塞性肺疾患） |
| 呼吸機能検査 | スパイロメーターで肺活量や呼出量（1秒間に吐き出される呼気量）を測定し呼吸の機能を見る検査です。（肺気腫・気管支炎・肺繊維症・気管支喘息・肺梗塞） |
| 便潜血反応 | 消化管で出血すると便の中に血液が混入されて排泄されます。そこで少量の出血でもこの検査では微量な赤血球成分を検出し、出血の有無を知ることができます。 （大腸がん・大腸ポリープ・潰瘍性大腸炎・消化性潰瘍・胃癌・痔など） |
| 尿検査 | 尿糖：糖尿病などで血糖が高いと尿中に糖がでます。 尿蛋白：高血圧・腎臓に障害があると蛋白がでます。 尿潜血：腎臓、尿管、膀胱の炎症や尿路結石・腫瘍などで見られます。 ケトン体：体の中で糖質の利用が阻害されると、脂肪の代謝が促進されケトン体の成分が増加します。（重症糖尿病・激しい下痢・嘔吐・高熱など） |
| 心電図 | 不整脈・心臓肥大・心臓の筋肉の異常などがわかり、狭心症・心筋梗塞の発見に役立ちます。 |
| 24時間心電図 | 不整脈、狭心症によると思われる症状がある時に、いろいろな活動をしている時の心電図を視る方法です。 |
| 胸部X-P | 肺の中の影（結核・癌）の有無、気管支拡張や心臓の大きさ、形などを調べます。 |
| 腹部X-P | 腸管ガスの状態や肝臓・腎臓などのおおよその大きさと形、結石の有無、腹水の有無、腰椎・骨盤などの骨の状態がわかります。 |
| 胃透視検査 | バリウムを飲んで上部消化管を造影し臓器の変化や異常を調べます。検査結果で異常があればさらに内視鏡検査（胃カメラ）を行う場合もあります。 （胃潰瘍、胃炎、ポリープ、胃癌、十二指腸潰瘍） |

| | | |
|-------|---|---|
| 内視鏡検査 | 上部消化管検査：食道から胃、十二指腸までを見る検査です。癌などの悪性腫瘍の発見だけでなく、胃炎、胃・十二指腸潰瘍はX線検査に比べて正確に診断することができます。 大腸内視鏡検査：大腸全体を観察します。大腸がん、大腸ポリープなどの診断には欠かせない検査です。 | |
| 喀痰細胞診 | 痰を顕微鏡で検査し癌などの細胞が出ているか調べます。 | |
| 血 | 赤血球 | 貧血、多血症をみます。 |
| | 血色素量 ヘマトクリット | 貧血の有無、程度、原因を調べます。 貧血になると顔色が悪くなります。血色素が減るためです。 |
| 液 | 白血球 白血球像 | 炎症やウイルス・細菌感染が起きていないかを調べます。 好中球・リンパ球・好酸球などの割合をみます。アレルギーでは好酸球が増加します。 |
| | 血小板 | 出血したときに血を止める働きがあります。多いときは感染症など少ないときは肝障害・脾臓機能亢進・出血傾向を考えます。 |
| | 血沈 | 病気を発見する手掛かりとなります。 炎症や感染症があると亢進します。 |
| 尿酸 | 高値では通風や腎臓結石の原因になります。プリン体を多く含む食品やアルコールなど飲み過ぎ食べ過ぎに注意。 | |
| 脂 | 中性脂肪 | 増えすぎると動脈硬化や肥満の原因になります。カロリーの取りすぎに注意しましょう。 |
| | HDLコレステロール | 善玉コレステロールと言われ、この値が高いと動脈硬化を予防します。逆に低い場合は動脈硬化を促進させます。 |
| 肪 | LDLコレステロール | 悪玉コレステロールと言われ、肝臓から血管へコレステロールを運ぶ働きをし、動脈硬化を促進させます |
| 肝臓 | GOT | 肝臓や心臓に多く含まれる酵素で肝臓や心臓の組織が壊れると血液中に出てきます。 |
| | GPT | 肝臓に多く含まれる酵素で、異常値の場合は肝障害を疑います。 急性肝炎・慢性肝炎・アルコール肝炎・脂肪肝・肝癌・劇症肝炎 |
| | γ-GTP | 肝臓・胆嚢系の病気を調べるもので、特にアルコールには敏感でアルコール肝炎などで上昇します。 |
| | ZTT TTT | 血清中の蛋白質の性質を調べる検査で、肝臓の障害の程度がわかります。 |
| | ALP | 肝機能や黄疸の程度を調べます。 |
| | 総ビリルビン | 肝臓や胆管などの障害を調べます。肝機能障害・胆石・黄疸があると高値となります。 |
| | LDH 総蛋白 | 肝臓病・心臓病・血液の病気で高値となります。 栄養状態・肝臓・腎臓の機能を調べます。 |
| 糖尿病 | 尿糖 | 糖尿病の発見の手掛かりとなる検査です。 |
| | 血糖 | 糖尿病の発見の手掛かりとなる検査です。血糖値は食事の影響を受けるので、空腹時で検査を受けるのが望ましいです。 |
| | HbA1c | 過去2～3カ月の血糖の状態をみます。 |
| | 1.5AG | 過去2、3日の血糖のコントロール状態をみます。 |
| | GA グリコアルブミン | 過去1、2週間の血糖のコントロール状態をみます。 |
| アミラーゼ | 膵臓から分泌される酵素で膵臓に障害があると血液中や尿中に出てきます。 | |

| | | |
|--|---------------------------------|--|
| 甲状腺 | TSH | 甲状腺刺激ホルモンで甲状腺機能亢進症では低く、甲状腺機能低下症では高値を示します。 |
| | T3 T4 | 甲状腺ホルモンで甲状腺機能亢進症では高値を示し、甲状腺機能低下症では低値となります。 |
| CRP | | 体の中に炎症があると値が高くなります。 |
| RA | | リウマチ、関節炎、肝炎などで (+) 以上となります。 |
| CPK | | 心筋梗塞の早期診断につかいます。脳・骨格筋・心筋に多く存在し脳疾患・骨格筋疾患・心疾患の時上昇します。 |
| BNP | | 心臓の異常を判断するための検査です。 |
| Cペプチド | | |
| 尿中NTX | | 骨代謝マーカー 骨粗鬆症の診断に使用します。 |
| PSA | | 血清中前立腺特異抗原の測定法で、前立腺肥大、癌 等で上昇します。 |
| 電解質 | | 体の中にはいろいろな電解質があり、バランスよく調節されています。Na (ナトリウム) ・K (カリウム) ・Cl (クロール) ・Ca (カルシウム) ・P (リン) など Na・K・Clは腎臓病・副腎の病気・嘔吐・下痢・利尿剤・消耗性疾患などで異常になりやすく、Ca・PはビタミンDの異常や骨の病気、腎臓病、悪性腫瘍などで変化します。 |
| 腎臓 | 尿素窒素 クレアチニン クレアチニン・クリアランス | 血清尿素窒素は体の中で蛋白質が利用された後の老廃物で腎臓から尿中に排泄されます。 血清クレアチニンは筋肉の中でクレアチニンが利用された後の老廃物で腎臓から尿中に排泄されます。 腎機能をさらに詳しく見る検査です。1日に尿中に排泄されたクレアチニン量と血清クレアチニンを比較します。 正常値(男性：85～150 $\mu\text{mol}/\text{day}$ ・ 女性：80～110 $\mu\text{mol}/\text{day}$) |
| IgE (免疫グロブリン) | | IgEは花粉症、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹などの病気に関連を持つ抗体です。 IgE総量が高い病気：気管支喘息などのアレルギー疾患、寄生虫感染など RST法：血液中の総IgE濃度を測定します。 RAST法：アレルギーの原因物質(ダニ、牛乳、卵) ごとに血液からIgE抗体ができていくか調べます。 |
| <p>★ 一口メモ</p> <p>メタボリックシンドロームとは、内蔵脂肪型肥満に高血糖・高血圧・高脂血症のうち2つ以上を合併した状態を言います。これらの症状は動脈硬化により脳梗塞・心筋梗塞などの発生頻度を高めます。</p> <p>ウエスト周囲 (へその周囲)：男性 (85cm以上) 女性(90cm以上)</p> <p>脂肪の蓄積の予防・解消のために食事・運動による生活習慣の改善が大切です。がんばりましょう!! ★</p> | | |